

ったが、上海の近くの西湖は柳が多く有名な所ですが、景色も良く多少の植物がありました。拡大な土地のわりには植物の種類は少なかつたように思います。

その間熱河省の総合調査に参加もしました。ここで珍しいスキの一種を発見しました。その新品種をラクダカヤと命名したがとでもうれしかったですよ。

昭和九年に助教になり、教授になったのは昭和十七年です。

僕の学問は、現地について現地の植物を観察するのが専門だったものだから、全国各地を回らなければ商売にならないのですよ。ですから随分卒業と同時によくまわりました。

例えば、文化財の調査であるとか、文化財でも天然記念物の調査、それから終戦と同時に国立公園の委員を拝命するとかね、全国を回って調べなければならぬような商売になったわけです。

武蔵野をしのぶ

昭和六年頃僕がここに移り住んだ時は、この辺は前に一軒の家があっただけで、林と麦畑に囲まれていましたよ。無医村でしたね今では団地や工場の進出で昔のおもかげはほとんどなくなりましたかね。

しかし、電車は二十分おきぐらいにありましたから交通機関には不自由しませんでした。武蔵小金井から乗り降りする人も五・六人程度で、定期券を見せる必要もありません。

要もなくいわゆる顔パスでね、アッハッハ。おはようございますと云ってお互いににっこりとしてそれで通ったものですよ。

駅には、傘や下駄を預けるなど自由ができました。

始末書園長のニックネーム

昭和十七年から二十七年にかけて十年間、小石川付属植物園長をも兼ねていました。戦争が始まってからづうとでしよう。戦争の最も過激な時代、それから戦後の食物の不足の時代、一番分が悪い時代にやっていたわけです。

小石川植物園のはじまりは、江戸時代からで幕府の御薬園で出発、薬草が主でした。その後薬草でないものも段々広げていったんです。

戦争の混乱時代は、囲りの塀は壊われほうだい、人が自由に入ってきて煙草やマッチを投げ捨てる。冬場は枯葉が燃えうつつて火事がよく起こった。

何度、始末書を書かされたか分からんですよ。始末書園長とよくいわれました。

そういうことで、評判はちつとも良くない、何度も辞表を書けといわれたけれどもがんとしてききれなかった。

また戦争中は、食糧増産のため、広場やあき地を耕し、芋や野菜、大根などを作りましたよ、僕も恩恵にあずかりました。

やった。おぼえていらつしやるわけなんです。感激しました。そのほか植樹祭や国体などで全国をおまわりになるでしょう。その時々その土地土地の学者がご進講申しあげるわけ、それをいちいちおぼえていらつしやる。

何年の何月にどここの国体に行ったときにだれそれがこうい話をしたとか、これは何県しかないといったが本当かねと念を押されることもしばしばありました。

この間、下田にいった時、薄暗い所に蟹がいるのをご覧になって、これは何という蟹だよと初めて聞くような名前を言われて教えてくださる。何でも見るものごとく生物というもののはご興味だけではなしに知識もおわりになるのです。

お供をする時に陛下が疑わしいと思われることをそれぞれ専門の人におたずねになる。陛下のお相手をして思うのですが、お体のためにも非常にいいし、へんに政治向きのところにおはいりにならないで、そういう方面に専らいかれるということに幸せだと思います。

波野のスズラン

スズランが波野に群生していると聞いていますが、あそこにあつてもおかしいとは思いませんがね。

クに入れて帰ったことを思い出します。

当時、植物園の園芸師であつた熊本の人が僕の片腕になった人がいますね、その人は日清戦争で勲功のあつた松崎大尉の息子さんで、松崎直枝という方ですね、同じ熊本県人だということもあつて気が持が良く通じ合つたし、何にかにつけて僕を支援してくれた人でした。

この人も頑固一徹の人でね。こういうことがありましたよ。

戦争も末期に近い昭和二十年の八月十日頃終戦直前ですか、陸軍から植物園をこわして高射砲陣地にしたいと交渉にきたんですよ。軍人だから高圧的な態度でね。そこで松崎君と僕と二人で、ここは植物の研究場所だからだんじて貸すことはできんかとんとして受け入れなかつたですよ。

まあ、肥後モッコス精神といいますが、最後まで植物園を守りとおしましたかね。

また付近の民家の人々に、戦災で焼け出されたらいつでも植物園を提供するから、ここを避難場所にしなさいと呼びかけたんです。それが僕がにらまれる一つの原因になつたんです。大学当局からね。

なぜ。大学そのものを守らないで、近所の人達ばかりに開放するののかといったような非難ごうごうたるものを僕は浴びせられたものですよ。

波野は地形にも、標高もちようどいいし、草原的なところでもあるからね。だが、僕の知る限り、スズランの南限は奈良県なのです。あまりにも飛び離れているしね、そういう意味では希少性がありますね。

大陸性と熊本植物

熊本の植物にめずらしいものが多いですね。大陸との関係で阿蘇の高原地帯に良く現われています。

大陸性のものが南下し、九州の中部の高原地帯に南限として今残っているというところでしょうかね。福岡県よりも阿蘇に多く残っています。大陸性のものでヒゴダイ、ヤツシロソウ、ハルリンドウ、キスマシレなどがそれです。

子供の頃の思い出

北岡神社の「茅の輪くぐり」はなつかしい。六月三十日でしたかね。茅で作った輪をくぐると病気が治るといふことでよくいったものです。

花岡山は子供の遊び場ですね、頂上には鐵掛の松があつた。そこから春日の方や島崎方面をよく見おろしたものです。また、熊本市の西部地域を中心に、学校の種別、学年の上下にかかわらず同好の人が集つて会を作っていました。「同心会」という名をつけていたんです。

僕は中学の一年になつてからその会に入会したのですが、そういうことは一つのことかしい思い出になっています。

天皇陛下のお相手

二十年ほど前から天皇陛下のお供をして、吹き上げ御苑などで植物のお相手を仰せつかつたのが始まりでしょうね。

去年なくなった元人事院総裁の佐藤達雄君は僕の五高の時の後輩だけども、あれは植物には詳しくあつたですよ。

最初はあれと二人ぐらいで吹き上げ御苑に召された。これがきっかけですよ。

それから毎年那須の御用邸にいかれる時にお供をしています。

つい二週間ぐらい前に下田の御用邸にいつてきました。

その時に「陛下今年はアメリカにいられるのですから下田だけで、那須の御用はないでしょう」とおたずねしたら、「いや夏またやるよ」と言われました。

陛下は植物にも非常に熱心でね、われわれはとでもおつかないですよ。細かい観察をされてね、立派な学者ですね。

下田でも那須でも必ずといっていいくらいに、夜になって座談会を二時間ぐらいいやるのです。その時には非常に打ち解けてね。たまには皇后さまも同席になることもあります。

陛下はわれわれ庶民には、向き向きにお話をされる。僕達には植物というものを置いてね、その植物以外には全然話しては出ないのです。

夜の座談会では、約二時間程度お話しを申しあげ、昼間は朝九時頃からお弁当

会員の大学生達が東京から帰ってくるのと東京の土産話を聞かせる、互いに気持ちの上でコミュニケーションがあらまします。毎週いろんな行事をやっております。夜は討論会や演説会とかね、昼間は剣道や柔道とか遠足、登山、うさぎ狩りなど良くやつたものですよ。

お寺を借りランプを机の上に置いてやつた演説会などでは、当時の月刊雑誌の名言句を棒暗記して熱弁をふるつたものです。

大学生あたりから話しかけると無性にうれしくてね、学問の励みになったし、人間もできてきたような気がします。

熊本の自然を大切に

熊本の良さは、風物、自然、工夫など歴史的なものが沢山残っていることだと思います。

私の畑の方から考えれば、自然的なもの、例えば天然記念物、森林や山岳地帯であるとか草原など、それを出来るだけ自然の状態で保護してもらいたいというのが私の熊本に対する希望なんです。ね。肥後つばきなど肥後と名のつく花は東京でも有名です。これはぜひ盛んにしてもらいたいと思います。これには長い歴史がありますからね。幸いに沢田知事さんが「新しいふるさとづくり」を提唱し、美しい自然の保護を強く打ち出しておられるようですが、我が意を得たりということ心強いです。是非そういうことを進めていただきたいと思ひます。